

2016年末に我が家の引っ越しを行い、ドタバタと新年を迎え、ダンボールの山に囲まれて正月を過ごす。引っ越し後数日は、寝袋とエアーマットで就寝する日々となるも、快適な寝袋で寝不足にならず。秀れた登山道具に感謝！

毎年、年末年始に夫と冬山の企画をするが、ここ数か月彼は山を歩いていない。1月22日に日帰りどころか山に登ろうと予定を空けていた私。夫を誘うと「久しく歩いていないから急に冬山は無理」と一言。「足が痛くなるからそんなに歩けない」ともう一言。とりあえず、彼が「リハビリがてらたくさん歩く計画へと変更する。初詣もまだだったので、新居近隣の七福神巡りをすることに決定。

1月19日(日)

今回は、東京都大田区池上にある七福神を巡ることにする。ただ歩いているだけではトレーニングにならないので、片足500gのアングルウェイトを両足に付けて出発。遅い起床となったため、出発もゆっくりとなる。

自宅を出て、数分歩いて前日に印刷した地図を忘れたことに気づく。取りに戻る。先行き不安である(今回は寄り道が多く、時間はほとんど参考にならない事をご了承いただきたい)。

13時00分

東急池上線池上駅出発。商店街を通り抜け、住宅街へ。

13時10分

まず一つ目、布袋尊様(福德・円満・忍耐を授ける弥勒菩薩の化身神)が祀られている曹禅寺に到着。住宅地に突然現れるお寺。

正門であろうか、瓦交換の工事中で通行禁止となっている。

裏の小さい門をくぐると年配の男性に声をかけられる。

「七福神巡りですか？ご案内しますよ」。布袋尊様のところまで案内してもらう。小さい庭であるが、石庭になっている。

中学生の時、修学旅行で訪れた京都の龍安寺を思い出す。

新しい瓦が並べられ、中も立ち入り禁止区域がある状況。

来月また訪れてみよう。

<ポイント1>

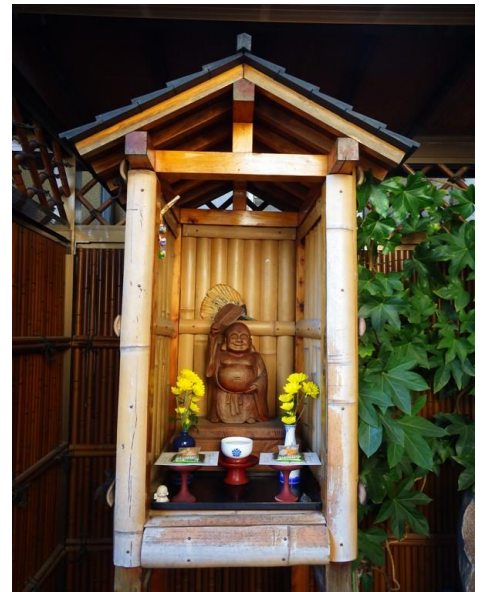
曹禅寺:立派な本堂や石庭、欄干橋柱など見所多数。

こちらには本堂正面左側に、楽しげなお顔の布袋尊さまが…。

スタンプが置いてあるので押し忘れなく。色紙はこちらで購入可。

お正月には七福神グッズの販売もあり！

(東急電鉄 沿線アーカイブ記事参照)



曹禅寺を出発する際、若い二人組の女性と入れ違いになる。この方たちも七福神巡りをしているようだ。調べた地図では、次は毘沙門天様が祀られるお寺に向かう。住宅街を通り抜け、池上通りに入る。ここは何度か通ったことがあり、この通りに鳥居があった事を思い出す。そして、地図を無視して進んだ結果、その神社は七福神と関係なく、来た道に戻ることになる。

13時25分

二つ目、毘沙門天様(威光と財宝授与の北方守護の武神)を祀られる微妙庵(みみょうあん)到着。先ほど自分たちが間違えて歩いている時にすれ違ったご家族が参拝している。1月も後半だが、自分たちのように遅い初詣で楽しんでいるのであろうか。毘沙門天様の顔、なかなか厳しい顔つきである。私が「怖いね」と夫に言うと「武士ですから」とサラッとかわされる。

<ポイント 2>

毘沙門天様は小さいながら迫力のあるお姿。思わずこちらの背筋が伸びる感じである。本堂正面左側の小さなお堂に馬頭観音(イボとり観音)も祀られている。イボ取り地蔵はいくつかあるが、イボ取り観音様は都内ではここだけだとか…。(東急電鉄 沿線アーカイブ記事参照)

次の神様まで10分もかからず到着。七福神の幟(のぼり)がないと見過ごしてしまいそうな場所にある。家族連れが参拝を済ませ階段から降りてくる。結構急な階段である。



13時35分

大黒天様(米俵をふまえる有福の台所守護神)が祀られている馬頭観音堂へ。小槌がたくさん供えられている。

<ポイント 3>

木々に覆われ歴史を感じるたたずまいの馬頭観音堂。お堂の奥に大黒天様が祀られています。動物の神様である馬頭観音に見守られ、いつも数匹の猫がのんびりとくつろいでいる。(東急電鉄 沿線アーカイブ記事参照)

お参りを済ませ戻ろうとすると、最初にすれ違った若い女性二人が階段を上がってくる。(おそらく、寄り道をしなければ、前後に出会った家族と女性は最後まで一緒だったかもしれない。)

次の七福神に向かう前に、年末の引越でお世話になった不動産屋さんにも新年のご挨拶も兼ねて足を運ぶ。担当者が迎えてくれ、池上周辺のお勧め店をいろいろ教えてもらう。しばらくすると社長が外出先から戻り、「梅園はどうですか?」と、更にお勧めスポットを教えてください。なんだかんだと30分ぐらいおじゃましてしまったが、新居周辺の事を詳しく教えていただいた。感謝、多謝、深謝!

その後、早速教えていただいたインドカレーで遅いランチをする。

<ポイント 4>

老舗インド料理「ターラ」

営業時間: 月~日、祝日、祝前日: 11:30~15:00 (料理 L.O. 15:00 ドリンク L.O. 15:00)

17:00~22:30 (料理 L.O. 22:30 ドリンク L.O. 22:30)

ランチ食べ放題 1280円(子供 780円、幼児 480円、3歳以下無料)。

ご飯、ナンだけでなく日替わりカレー四種類、サラダ、ヨーグルト、ソフトドリンク、全て食べ飲み放題に含まれる。単品にての注文も可能だが、昼は断然食べ放題を選択したほうがお得。

食事を終えたのは15時過ぎ。美味しくて調子にのり食べ



過ぎてしまう。お腹をさすり、次なる七福神巡りへ出発。
途中、古民家カフェ「蓮月」というお店の前を通過。
よくテレビ等の撮影でも使われるぐらい内装も素敵な
お店とのこと。この日も、多くのお客さんで賑わって
いる。しかしカレーを食べすぎたため、次の楽しみに
とっておくことにする。

<ポイント 5>

古民家カフェ「蓮月」

10:00~22:00 不定休

夜はお洒落な居酒屋さんに。

興味のある方は下記ホームページへ。

<http://rengetsu.net/>

15 時 33 分

正面に池上本門寺が現れ、我々は左へ曲がる。いくつかお寺がならば中に七福神様が祀られているお寺
に到着。

弁財天様(芸術・弁舌・才智・財宝を司る女人神)を祀っている巖上院(ごんじょういん)到着。

<ポイント 6>

門や本堂に施されている彫刻が美しく境内も掃き清められた印象である。優しいお顔の弁財天様は本堂
正面右側、石造りの弁天宮にいらっしゃる。また池上本門寺の総門手前に別院として鬼子母神堂が建立さ
れている。(東急電鉄 沿線アーカイブ記事参照)

ここから教えていただいた池上梅園に寄り道。まだ三分咲きぐらいであろうか。早い春を楽しんだ。静か
でいい雰囲気である。かすかに梅の甘い香りも漂っている。

<ポイント 7>

池上梅園

開園時間:9:00~16:30 入園受付 16 時まで

入園料:大人 100 円 子供 20 円

休園日:2 月・3 月を除く毎週月曜日及び年末年始。

梅は中国渡来と言われているバラ科の植物で、
その実は梅干し・梅酒という保存食になるだけで
なく、最も早く咲くことから古来より百花の魁
として愛されてきた。

梅の種類はその性質から三系統に分類され、
それぞれについて一重、八重など品種がある。

梅の名称はその愛好家が名付けたもので、
現在 300 種余あるといわれているが、池上梅園では
約 30 種類が観賞できる。(パンフレット参照)



詳細は、大田区ホームページ下記参照

<http://www.city.ota.tokyo.jp/shisetsu/park/ikegamibaien.html>

まだ 3 つの七福神様が残っている。来た道を急いで戻り、本門寺新参道にぶつかりと右に曲がる。5 つ目
の七福神様発見!

16 時 23 分

福祿寿様(福と祿と寿命を授ける老人神)が祀られている本成院(ほんじょういん)到着。

<ポイント 8>

本成院はひとたび門をくぐると静かな空間が広がっている。歴史あるお寺で、鎌倉時代に池上の北谷の地で日蓮聖人の直弟子・日向聖人の庵室として開創され、江戸享保年間に現在の場所に。福祿寿様に「元気で長寿を…！」とお願いして後にする。(東急電鉄 沿線アーカイブ記事参照)

残すは二つ。川沿いに歩いてしばらくすると左に長い階段が見える。階段を登ったところに6つ目の七福神様が祀られている。

16時30分

樹(寿)老人様(長寿と学を授ける南極老人神)が祀られている妙見堂(みょうけんどう)到着。立派な木が一本真ん中に立っている。

<ポイント 9>

樹林に囲まれた照栄院妙見堂は小さいながら凝った造りのお堂。(東急電鉄 沿線アーカイブ記事参照)

隣に池上会館の展望台があり、寄り道する。大田区が一望できる。山が見えないのは残念だが、太陽も沈みかけていて夕日がいい感じである。さて、残すは恵比寿様のみ。階段を降り、5分ぐらいで到着。



16時50分

恵比寿様(商業・漁業繁栄・家庭円満の福の神)が祀られている養源寺(ようげんじ)到着。恵比寿様を探すが見つからない。(16時30分過ぎてしまったからか)本殿の扉も閉められている。おそらく扉の向こうに祀られているのだらうと、後日再び参拝すると本殿の扉はやはり閉ざされている。周囲を探すと、なんと恵比寿様は隣の事務所入り口に祀られていた。いい笑顔である。



<ポイント 10>

参拝スポット養源寺。こちらは八代将軍徳川吉宗が鷹狩りの際に御膳所になったとか。(東急電鉄 沿線アーカイブ記事参照)

たっぷり池上周辺を堪能。時間があれば池上本門寺も散策しようと考えていたが今回は時間がなくなってしまった。また別の機会に。

少しは夫のいい運動になったであろうか？

最初は心配したが、今シーズンは雪が豊富の便りが来ている。

夫と雪山と一緒に登れるか？

今回の運動量では不安だが…。